

日高中学校区学校支援地域本部 (日高村)

■ 生徒が集う学習室

《日高中学校区学校支援地域本部の始まり》

日高村では平成21年度から学校支援地域本部事業を実施しています。平成15年に設立した「日高村子どもの未来応援団」が同事業の中核的な役割を担い、子どもを支える活動から学校を支援する活動へと広がりを見せています。

当初は、地域住民からの支援の基盤があるものの、学校側では、「学校支援」に対する理解が十分でなく温度差があるスタートとなっていました。コーディネーターの方等が、地域ボランティアや学校に丁寧に活動内容を紹介するなど地道な活動が実を結び、活動日数や参加者数、支援活動のバリエーションが年々増加しています。

コーディネーターは、日高中学校区を対象として1名配置し、平成24年度からは日高中学校内に席を構えています。平成25年度からは「地域と学校の調整役」、「授業のサポートを行なう教育支援員」、「放課後学習室支援者」の三役を担っているため、学校と綿密な情報交換ができ、より相乗効果の高い活動となっています。

《日高中学校放課後学習室の新たなスタート》

放課後子ども教室として実施していた日高中学校放課後学習室を、平成25年度から学校支援地域本部事業において行うこととなり、より学校と連携を図ることができるようになりました。現在は、生徒の情報や指導内容等について学校と相談のうえで、中学校の余裕教室で放課後学習室（地域未来塾）を実施しています。

開催日は週3回程としていますが、学校の状況によっては、ほぼ毎日実施しており、英・数を中心とした教科の復習、補習を行っています。対象は全校生徒ですが、参加人数は1日あたり7～8名程度で、学習支援員として元ALTの先生、大学生、コーディネーターがあたっています。

テスト期間中になると部活動もストップしますので、多数の生徒が活用し、この時期は、日高中学校の教員も入った体制となります。生徒からは、「テスト期間中は土曜日でも実施をして欲しい。」との声が聞かれます。また、年々、日高中学校の全校生徒数は減少していますが、放課後学習室にくる生徒は反比例して増加している状態です。

コーディネーターは、ただ生徒が来るのを待つばかりではなく、「コーディネーターとの関わりが少ない学年は、放課後学習室に来にくい」という考えのもと、日中の授業にT2のかたちでサポートに入ったり、学校行事へ積極的に参加したりと、生徒との関係づくりも行っています。教師でもない、親でもない、第三の大人と生徒が関わり生徒に寄り添うことで、学力の定着以外にも様々な効果が出るようになりました。例えば、教室に入りにくい子どもの拠り所となったり、将来の話や相談もできる場になったりと、「居場所」としての機能も発揮しており、「勉強したくない！」と言いながら席に着く生徒、「英語が伸びないけどどうしたらいいの？」と相談してくれる生徒と様々です。また、学校長の考えのもと、卒業生も放課後学習室に参加できる体制となっています。

(平成27年度実績 115日、690時間)

《放課後学習室とは》

- ①様々な想いが交差しつながら場
- ②人と寄り添い、教師と生徒との信頼を積み重ねていく場
- ③学校でもない塾でもない「放課後学習室」

という生徒の居場所。

これらが、日高中学校区学校支援地域本部日高中学校放課後学習室なのです。

